

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2010年12月）

発表日：2011年2月7日(月)

～C I一致指数は2ヶ月連続の上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数は2ヶ月連続の上昇に

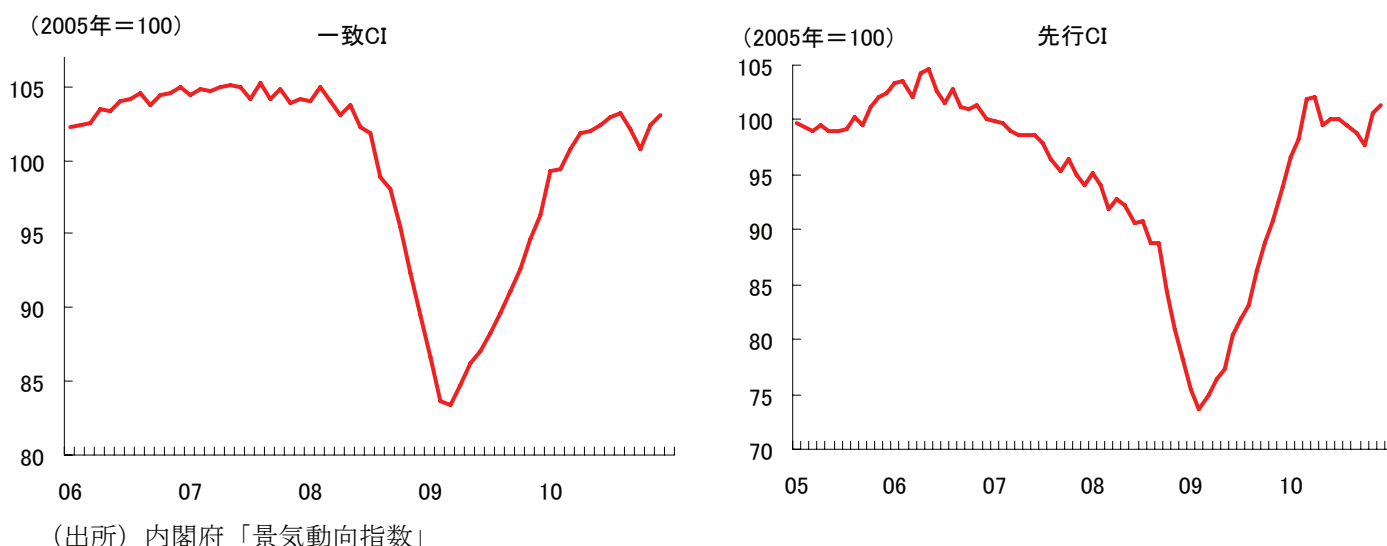
本日内閣府から公表された2010年12月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.7ポイントとなった。9、10月には2ヶ月連続で低下し、C I一致指数の基調判断が下方修正されるなど、景気失速懸念も強まっていたが、11月、12月と2ヶ月連続で上昇することで、こうした懸念はかなり和らいだ。12月の内訳では、鉱工業生産指数、鉱工業生産財出荷指数など生産関連のプラス寄与が目立っている。

C I一致指数と関連の深い鉱工業生産指数において1月に大幅上昇が見込まれていることも好材料である。1月のC I一致指数の水準も直近のピークである2010年8月の水準を明確に上回るとみられ、昨年秋以降の足踏みが景気後退局面と認定される可能性はかなり小さくなった。

なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は「足踏み」が維持された。「改善」への上方修正には、3ヶ月移動平均が3ヶ月以上連続して上昇することが必要であるが、3ヶ月移動平均の値は2010年9～11月にかけてマイナスになった後、12月分でようやくプラスに転じた段階である。原則として、基調判断の上方修正は最短で2月分の公表時になる¹。

○ 先行指数も2ヶ月連続で上昇

C I先行指数も、前月差+0.8ポイントと2ヶ月連続の上昇となった。内訳では、中小企業売上げ見通しD Iのほか、鉱工業生産財在庫率指数や日経商品指数などのプラス寄与が大きかった。景気の先行きを見る上で明るい材料と言えるだろう。



¹ 基調判断の基準は満たさないが、但し書きをつける形で2月分の公表を待たずに上方修正する可能性は残る。